

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)平和製罐様工場新築工事	階数	地上2F
建設地	大阪府泉佐野市りんくう往来北	構造	S造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	30人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,960時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年8月 予定	評価の実施日	2023年10月3日
敷地面積	4,624 m ²	作成者	大和ハウス工業㈱
建築面積	2,856 m ²	確認日	2023年10月6日
延床面積	5,270 m ²	確認者	大和ハウス工業㈱



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

92 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.7

Q1 室内環境 Q1のスコア = 0.0

音環境	N.A.
温熱環境	N.A.
光・視環境	N.A.
空気質環境	N.A.

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.6

機能性	N.A.
耐用性	3.0
対応性	4.2

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.1

生物環境	1.0
まちなみ	3.0
地域性・	2.0

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.7

LR1 エネルギー LR1のスコア = 4.3

建物外皮の	5.0
自然エネ	3.0
設備システ	4.9
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.2

水資源	3.4
非再生材料の	3.3
汚染物質	3.0

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.2

地球温暖化	3.8
地域環境	2.8
周辺環境	3.2

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
省エネルギーに配慮した設計となっている。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能 階高5.4m以上 ゆとりをもった設計になっている。 壁長さ比率0.9と、空間の形状と自由さが大きい	Q3 室外環境(敷地内)
LR1 エネルギー BPI _m 0.70 基準より30%削減 BEI _m 0.61 基準より39%削減	LR2 資源・マテリアル 部材の再利用可能性向上に努めている	LR3 敷地外環境 LCCO ₂ 排出率を基準から21%削減 光害対策有、広告物照明における配慮有

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

R5-0083

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】	建物名称	(仮称)平和製罐様工場新築工事						
	建設地	大阪府泉佐野市りんくう往来北						
	用途/区分	工場 事務所						
【評価結果】	CASBEE 総合評価						B+	
①	CO2削減						4	
②	みどり・ヒート アイランド対策						2	
③	建物の断熱性						5	
④	エネルギー削減						5	
⑤	自然エネルギー直接利用						—	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—	—
エネルギー消費量の報告								
【評価項目】								
	項目	評価内容				スコア	評価	
①	CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価				3.8	4	
②	みどり・ヒートアイランド対策							
	生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価				1.0	2	
	敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3.2」のスコアによる評価				2.0		
	温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2.2」のスコアによる評価				3.0		
③	建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価				5.0	5	
④	設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価				4.9	5	
⑤	自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価				3.0	—	
	エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。				報告する 報告しない	報告しない	
その他								
		技術の名称			考慮事項			
	先進的技術の導入							
	特に配慮した事項	建物の省エネルギー性能の向上に努めた。						